

ニュージーランド放牧牛の国内繁殖がついにはじまりました！

確実に利益が出せる「放牧」への新展開
NZ放牧牛の精液導入は、戦後65年続く日本酪農の新たな“開国”です

ファームエイジ株式会社

ニュージーランド(NZ)の酪農家は、「夫婦+1名の働き手で約300頭を飼養している」というのが標準的な姿です。そして生産した乳の95%は加工されて海外へ輸出されます。この圧倒的な国際競争力の源は、生産効率・利益効率第一の経営姿勢にあります。目の前にある限られた資源をどう活用し、いかに利益を生むか。外から飼料を買ってまで乳を搾ろうとは決して考えません。単純な大規模化が効率を上げる唯一の道とも考えていないでしょう。

NZではほぼ100%が放牧をしており、土作り、草作りの研究と共に、放牧に合わせた牛の改良に地道に取り組んできました。そして、たとえ年間の乳量は少なくとも、長寿命であり、粗飼料から乳への変換効率が高い、「生涯を通して確実に利益を上げる牛」を目指したのです。

今回、このNZ凍結精液をはじめて日本に導入することができました。放牧タイプの「ファイレンツェ」(NZH-103505)と日本事情を勘案した放牧+濃厚飼料を併行できる「ピエリ」(NZH-672213)です。供給元のCRVアンブリード社では、3年前からアメリカへの精液輸出も始めました。日本の酪農家の皆さん、放牧を主体とした酪農スタイルと一緒に考えていきませんか。

●従順、温かな気質

搾乳や牧区移動などの管理がスムーズにできます。

●放牧に適した機能的な体型

地面の牧草が食べやすくエネルギー効率の高い小柄な体つきです。

●牧草中心で年間乳量約4500kg

飼料代を大幅に削減して、利益確保が図れます。(228日ベース)

●長い泌乳期間・生命寿命

乳量を維持しながら平均5~6産します。

●すぐれた繁殖能力

授精までの平均種付け回数1.3回。しかも自然分娩です。

●日本で登録済み

家畜改良増殖法に基づく血統登録ができます。

●信頼と実績の供給元

世界第3位の人工授精専門会社「CRVアンブリード社」の精液です。



「ファイレンツェ」(NZH-103505)



「ピエリ」(NZH-672213)

詳しい資料ございます(無料)
ご希望の方はご連絡ください!



(精液のお求め・お問合せ) 各地の農協、NOSAI、家畜人工授精所まで



NZ家畜精液授精日本第一号！(北海道別海町 今井さん)

あなた
はNZの種牛に
何を期待
しますか？

酪農家の声

牧草
から乳への効
率のよい転換を
期待します。

Sさん

放牧
に適した個体を作
りあげたいと考
えています。小
型化や足腰を強
くなど、地元根
割の大地にあ
った牛を求め
て期待してい
ます。

はさん

放牧
先進国NZの牛
に対して、単
純に、とても
興味がありま
した！

Mさん

とくに
繁殖力の向
上に期待して
います！！

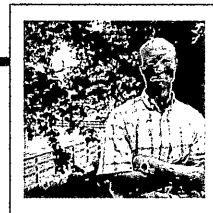
はさん

受胎率のよ
さが一番気
になります
ところですね

Yさん

※NZ精液導入済あるいは導入予定の方へのアンケートです。
※2010年12月より多くの酪農家の皆様にNZ精液を使っていただいています。

アンブリード社担当からのコメント ニュージーランド精液の諸外国での利用



私たちCRVアンブリード社の種牛は、40カ国以上に輸出され、使用されています。

今回、日本で販売を行う「フィレンツェ」と「ピエリ」に関しては、アメリカ、オーストラリア、アイルランド等で使用されており、普及が進んでいます。もちろんニュージーランドでもトップクラスの種牛です。

何故これらの国が、私たち(ニュージーランド)の種牛を使用するようになってきているかと申しますと、繁殖率の高さと放牧に適している(長寿命で粗飼料の牛乳への変換効率が高い)点であると思われます。特にアメリカの場合は、現在多くの酪農家が穀物の高騰により、破産の直前まで来ている状態ですので、今までと同様に大量の穀物を

与えて短命の牛を育てては、持続的な酪農を続けることはできません。そこで長寿命で粗飼料の変換率の高い健康な牛が求められています。

私たちが日本の酪農家の方に提案したいのは、大きな牛を飼育し、メンテナンス(飼料・資材費・診療費)に費用がかかる今までの経営スタイルではなく、乳牛は小さくても、粗飼料から牛乳に効率よく転換でき、5産以上できる牛を飼育する、という酪農スタイルを選択の一つとして取り入れていただきたいということです。そして、生産効率を上げていただくことを願っています。

(CRVアンブリード マイケル・ジョン・バリー)

参加者募集中

第22回 グラスファームینگスクール
大地と共に生きる農業へ

STEP1
農業経営から学ぶ
土づくり

2011年6月1日(水)～6月3日(金)

本スクールは、日本国内でも放牧酪農を本格的に学べる機会を、という要望に応えて、1996年より開催。2泊3日で、放牧の知識と技術を実践的に習得し、理論的な基礎をしっかりと押さえます。国内外の各専門家により、日本で取組む場合のポイントや視察牧場の土壌や牧草の診断を行います。詳しくは <http://souchi21.blog123.fc2.com/>

この記事に関するお問合せ、
放牧、NZ家畜精液に関するお問合せは
お気軽にお電話ください！



ファームエイジ株式会社

〒061-0212 北海道石狩郡当別町字金沢166
TEL:(0133)22-3060/FAX:(0133)22-3013



フリーダイヤル エイジで 良い柵を
0120-82-4390